

令和2年度 第1回 佐世保市図書館協議会 会議録

1. 日 時 令和2年11月20日(金) 午後4時～午後6時
2. 場 所 佐世保市立図書館 4階 A会議室
3. 出席者 ○佐世保市図書館協議会委員 (定数5名)(出席5名)
- ・学校教育関係者 前田 和子
 - ・社会教育関係者 喜多 祥浩
 - ・社会教育関係者 樋渡 憲三
 - ・家庭教育関係者 松山 裕美香
 - ・学識経験者 落合 知子
- 事務局・説明者(出席3名)
- ・図書館長 坂口 周一
 - ・館長補佐兼図書第一係長 谷口 進太郎
 - ・図書第二係長 合満 佐和子

4. 会次第

- (1) 開会
- (2) 議題
- ①令和元年度事業報告について
 - ②令和2年度事業計画及び実施状況について
 - ③その他
- (3) 閉会

5. 議事(要点筆記)

(1) 開会

～館長挨拶～

(2) 議題

①令和元年度事業報告について

《 説 明 》

～事務局から資料に基づき、令和元年度の事業報告～

・予算額 193,726 千円に対し決算額 186,060 千円 不用額 7,666 千円

内訳としては次のとおり。

「施設管理」 予算現額 37,379 千円 決算額 34,753 千円 不用額 2,626 千円

「運営」 予算現額 122,630 千円 決算額 117,817 千円 不用額 4,813 千円

「図書館資料費」 予算額 30,672 千円 決算額 30,671 千円 不用額 1 千円

「郷土研究」 予算額 3,045 千円 決算額 2,819 千円 不用額 226 千円

(令和元年度の主なできごとについて)

平成31年4月 西九州させぼ広域都市圏事業 図書館相互利用サービス(利用者登録・貸出)開始

令和元年5月 「第4回図書館まつり(5月3日～5日)」開催

6月 「図書館活用講座」開催

7月 「児童文学作家あんずゆきさん講演会」開催

- 「夏休み図書館探検ツアー」開催
西九州させば広域都市圏事業 図書館相互利用サービス（貸出・返却の配送サービス）開始
ビブリオバトル・オブ・ザ・イヤー2019「優秀賞」受賞
- 8月 「夏休み郷土学習教室（夏休み歴史めぐり）」開催
「夏休み子ども落語会」開催
- 9月 ビブリオバトル・オブ・ザ・イヤー2019「大賞」受賞
- 10月 「古文書解読初級講座」開催
「雑誌のリサイクル市」開催
「本のコーティング講座」開催
- 11月 「第3回佐世保市図書館を使った調べる学習コンクール表彰式」「第50回児童・生徒の郷土研究発表会」開催
- 12月 「百科事典活用講座」開催
- 令和2年1月 「西九州させば広域都市圏 図書館相互レベルアップ事業 内野安彦氏講演会」開催
- 2月 「第52回佐世保市郷土研究所公开发表会」開催
「読み語り特別講座 伊藤明美氏講演会」開催
- 3月 新型コロナウイルス感染拡大防止のため図書館行事の中止とサービス縮小（3階講座室（学習室）、4階飲食コーナー等の利用禁止）
図書の貸出期間の延長（2週間⇒3週間）と貸出冊数の拡大（10冊⇒20冊）の実施

《 質 疑 》

会長：ただいまの説明に対し質問、意見等があればお願いしたい。

委員：不用額については、次年度に繰り越すのか。

事務局：繰り越すことはない。

委員：不用額が発生することにより、次年度の予算が減らされるということはないのか。

事務局：執行状況が悪いものについては、財政課の査定の中かで減額の対象となる場合もある。

委員：運営で480万円ほど不用額が生じているが、このような不用額が生じると、次年度に運営費を減らされることはないのか。

事務局：運営でこの不用額が生じたからといって、当該金額を次年度に減らされるということはない。年度ごとに予算を計上している。ただし、財政課のマイナスシーリングにより、5%なり10%なり減らしなさいということが全体の枠の中で発生する。

委員：図書購入費については、ほぼ満額使われているので大変結構である。

事務局：資料費は図書館の肝になるので、これだけ予算をつけていただいた分は全て執行する。若しくは足りないぐらいということを毎年示していく必要があると考えている。

委員：余った予算を図書購入費に充てることはできないのか。

事務局：議会で議決いただく場合、この金額はこの目的で使いますということなので、余ったから自由に使うということとはできない。運営の不用額については、システムリプレイスにかかる入札差金ということになるので、これを図書購入費に充てることはできない。

委員：精一杯の予算執行をされていると思う。公的な機関で、毎年シーリングを受けるなかで、これだけの予算を確保されているのは、事業努力をされているからだと思う。

会長：他になければ、資料 2 頁からの「令和元年度 佐世保市立図書館 主なできごと」に入る。質問、意見等があれば願います。

委員：ビブリオバトル・オブ・ザ・イヤー2019「優秀賞」と「大賞」の受賞は大変素晴らしいことだと思う。これまでの取り組み、実績が評価されたものと考えて。毎年度、本当によく取り組まれていると思う。

委員：令和元年 8 月に実施した「夏休み郷土学習教室」の直谷城跡見学と勾玉づくり体験は、教育委員会と連携して実施したものか。それとも図書館単独で実施したものか。

事務局：教育委員会の文化財課と連携して実施したものである。

委員：今年も開催したのか。

事務局：今年は世知原炭鉱資料館を見学した。

委員：当大学では、来月から、世知原炭鉱資料館の資料調査を実施することとしている。私ともう一人、博物科学の先生の 2 人で全部調査をする。ここは小学校でもよく行くところなのか。

委員：中学校では、世知原で野外宿泊学習を実施するときに、この炭鉱資料館に寄って少年自然の家に行くことがある。そういう歴史があったことを知っておくことも大切である。

委員：余談であるが、ここは無人なので、もう少し展示の仕方を工夫すれば、子どもたちがもっと学びやすい環境になるのではないかと思う。

委員：ビブリオバトル・オブ・ザ・イヤー2019「大賞」を受賞されたときは、市民に広報したのか。

事務局：新聞、広報させば、テレビ佐世保、それから市議会にも報告案件として、定例市議会のなかで市長から報告している。

委員：テレビで拝見した。

委員：市は、「英語が話せる街佐世保」ということで、特に取り組みを推進されているが、英語でのおはなし会や英語 de 友活などの取り組みについての反響はいかがか。図書館の取り組みによって、市民の皆様の間で、英語を話してみたいと思う気持ちが高まったりしているのか。

事務局：本当に英語が身につくようになるというところまでは達していない。ただ、毎回来られている方については、楽しかった、また来たいというお声をいただいているので、新たな参加者を呼び込み、広げていくような仕掛けを考えていく必要があると感じている。ただし、新型コロナウイルスの影響で、米軍との交流が難しくなっている現状もある。

委員：「本のコーティング講座」とはどういったものなのか。

事務局：参加者が各自 1 冊本を持参し、実際に図書館に置いている本と同じように、水濡れや汚れから本を守るフィルムでコーティングを行う。図書館で準備した古い本で 1 回練習をしていただいた後で、実際にやっていたらいい。

委員：1 回すれば結構な年数劣化しないのか。

事務局：汚れ等については、ほぼ付かない状況となる。開館当時から所蔵している本であっても、今も使用できている。

委員：和綴じの古い本はできないのか。

事務局：和綴じには合わない。背表紙が付いた洋綴じの本についてのコーティングとなる。

会長：他になければこれで質疑をとどめる。

②令和 2 年度事業計画及び実施状況について

《 説 明 》

～事務局から資料に基づき、令和 2 年度事業計画及び実施状況の報告～

- 令和2年4月 新型コロナウイルス感染拡大による国の緊急事態宣言が全都道府県に拡大されたことを受け、図書館全面利用禁止と臨時窓口設置による事前予約制の貸出の実施(4月18日～4月26日)
臨時窓口を閉鎖し完全休館(4月27日～5月11日)
- 5月 「第5回図書館まつり」開催中止
完全休館解除(5月12日～)一部サービス縮小状態で開館再開(座席の利用、レファレンスサービス、CD・DVDの館内視聴及びインターネット端末の利用中止。3階・4階の立ち入り禁止。図書館での滞在時間を30分程度でお願いします。)
図書のみ貸出冊数の上限を20冊まで。貸出期間は3週間。
はまゆう号運行再開(基本1名(その方の家族含む。)ずつの利用をお願いします。)
- 6月 段階的なサービス制限の緩和を開始(6月2日～)2階座席の一部利用再開(キャレル席では館内資料の閲覧のみ利用可)
ブックスタート再開
サービス制限の緩和(6月19日～)滞在時間2時間まで。会議室の利用再開。4階飲食コーナーの利用再開。
- 7月 本の拭き上げ終了。エプロンシアター・布絵本・人形(パペット)・パネルシアターの貸出・予約の再開(7月10日～)
- 8月 サービス制限の緩和(8月1日～)滞在時間の制限解除。閲覧席の数を減らして利用再開。レファレンスサービス(30分以内)の再開。座席数を減らしてCD(3席)、DVD(3席)の視聴再開。3階グループスタディコーナー(9席)、講座室(32席)の利用再開。
図書の貸出冊数上限20冊⇒10冊 貸出期間3週間⇒2週間に戻す。(8月1日～)
第4回「図書館を使った調べる学習コンクール」の「調べる学習講座」の実施(図書館職員による対応)
臨時学習室(視聴覚室)の利用再開(8月3日～)
「夏休み郷土学習教室」開催 中部地区公民館で座学後、世知原炭鉱資料館を見学
- 9月 「さぼんサーチ」開始(9月1日～)。図書館HPに開設。佐世保市周辺の図書館の蔵書がまとめて検索可能となる。
上映会の再開(9月9日～)毎週水曜日 座席数を減らし実施(定員24名)
赤ちゃん向けおはなし会「いないいないばあ」再開(9月17日～)
「第1回オンラインビブリオバトル(通算17回目)」開催(9月22日(火祝))。バトラー3名。バトラーがオーディエンスを兼ねる。試験的開催。
- 10月 【西九州させば広域都市圏主催】「児童文学作家くすのきしげのりさん講演会」開催(10月11日(日))。開催場所：山澄地区公民館3F講堂 定員80名 講演テーマ「子どもたちに生きる力としての読書のよろこびを」
「2020年読書週間イベント」10月27日(火)～11月8日(日)。本のおすすめカードを募集し、児童室に展示。プレゼントあり。
- 11月 読書週間特別講演会「伊藤明美氏講演会」開催(11月1日(日))。開催場所：3階視聴覚室 講演テーマ「子どもと昔話-選び方・語り方」定員24名
第4回「図書館を使った調べる学習コンクール」表彰式開催(11月14日(土))。低学年・中学年・高学年の各部門最優秀賞受賞の児童(各1名)とその保護者を対象に開催 開催場所：3階視聴覚室

「第2回オンラインビブリオバトル（通算18回目）」開催（11月23日（月祝））。
バトラー4名。オーディエンス5名公募。

12月 「環境部講座」12月19日（土）開催予定。一般室特別展示と連動し、地球温暖化に関する講座を開催予定。

令和3年2月 「郷土研究所公開発表会」2月20日（土）開催予定。

《 質 疑 》

会長：ただいまの説明に対し質問・意見等があればお願いしたい。

委員：7月に本の拭き上げを終了したとなっているが、図書館内の蔵書全てについて拭き上げをしていたということか。

事務局：返却があった本について拭き上げを行っていた。

委員：布製の本の貸出・予約を再開した理由は何か。

事務局：利用者に手洗いや手の消毒をしていただくことをお願いすることで、貸出等を再開した。

委員：返却された布製の本をファブリーズなどで除菌することはしていないのか。

事務局：今のところ行ってない。

委員：このコロナ禍のなかで、これだけの行事等を実施するのは、非常に神経をすり減らしたのではないと思う。特に感染防止対策については、図書館からのお願いを聞いていただければよいが、そうでないときもあったのではないと思うが、いかがか。

事務局：来館者のなかで、マスクの着用をどうしてもしていただけない方もいらっしゃった。ただし、その方に対して、強制的にマスクを着用させたり、マスクを着用していないので退館をお願いしたことはない。また、感染予防のため、ずっと図書館にいて帰らないような方については、2時間おきぐらいに声掛けをしていた。

逆に、職員の方はカウンターに常駐しているので、そういった方が来られると気を遣っていた。やはり職員の方が敏感になるというところは多々あった。

委員：不特定多数の方が来られるので大変だと思う。今、対策はどのようにされているのか。検温等されているのか。

事務局：検温はしていない。玄関に消毒液を置いて、ご自身で手指を消毒していただいている。また、館内では一般室に入口と出口を設定し、一方通行にすることで、できるだけ交錯しないような動線をつくっている。カウンターについては、飛沫感染防止対策として、上からビニールシートを取り付けている。後は、パソコンを使用した後のキーボードの拭き取りや、窓際の座席の拭き取りなどを清掃の方をお願いしている。

委員：職員の方の仕事量が増えたということか。

事務局：感染予防対策にかかる業務量が増えたと考えている。

委員：臨時休館中はどうだったのか。忙しかったのか。

事務局：コロナ禍のなかで、いつ開館するか、どのように開館するかについての準備に時間をとられた。また、蔵書点検を行う特別整理休館期間中でもできないような、例えば、非常に傷んでいる本の修理などといった作業も実施した。さらに、再開が決定した後は、開館に向けての準備を行った。

委員：資料6頁の第4回「図書館を使った調べる学習コンクール」の「調べる学習講座」で、追加開催を行ったとあるが、これは、定員を少なくしたことによるものか。

事務局：昨年度は、定員10名で、低学年・中学年・高学年の各部門で3回ずつの90人枠で開催したが、元年度は、各部門1回ずつということで、大幅な減となった。それでも、参加したいと

いうご要望が中学年について多かったので、追加開催を行ったものである。また、これがコロナ禍で開催する図書館のイベントとしては最初のものとなったので、一番気を遣った。参加される方にはマスク着用、手指の消毒、そして検温まで行った。また、窓を開けての換気、座席は2mの距離を置くなど徹底した。さらに、休憩時間には職員による机を拭くなど、大変気を遣った。

委員：それは大変ご苦労されたことと思う。

委員：今年は、スポーツについては途中から実施されていたが、文化のイベントはほとんど中止となった。しかし、私どもが主催する、子どもを対象とした童謡コンクールだけは何としても開催したかったので、開催日程を延期して、明後日の日曜日に開催することとしている。参加者も36人ほどいらっしやって、ようやく開催できる。コロナ対策としては、検温や、受付で来場者の名前、連絡先等を記載していただくこと等を考えているが、とにかくコロナ対策は気を遣うので大変である。図書館でもこれだけの行事をなさっており、大変ご苦労されたのではないかと思います。

委員：上映会を9月に再開されているが、定員24名に対して参加者はどれくらいなのか。

事務局：だいたい10名前後である。結果として「密」にならないので、安心な面もある。

委員：オンラインビブリオバトルを初めて開催しているが、結果はどうだったか。順調に成功裡に終わることができたのか。

事務局：思った以上に不具合がなく行うことができた。しかし、オンラインはどういう障害が発生するかわからない部分がある。事前に何回デモをやっても、何かしらのエラーが発生するといった状況である。ビブリオバトルは参加者が大人なので、回復するまで待つことができるが、子どもの場合は、集中力が切れてしまうのではないかと思います。どうしたら障害を起こさずにできるのかということが一番懸念するところである。

委員：通常のビブリオバトルでは、オーディエンスは予約せずとも、当日参加できると思うが、オンラインではどういったやり方をしているのか。

事務局：1回目については、バトラーがオーディエンスを兼ねた。資料7頁の11月23日に開催する分については、オーディエンスを公募している。

委員：バトラー4名とオーディエンス5名の9名しか参加できないということか。

事務局：そうである。マスコミ等は事務局の会場に来ていただいて取材することができる。画面に9枠出るようなイメージで考えている。オーディエンスが当日参加することはできない。

委員：少し寂しい感じがする。

委員：何か方法はないのか。

事務局：今後は、会場に人を集めて、オンラインでやりながら、会場から投票できるといったやり方ができないか考えていきたい。

委員：バトラー4名とオーディエンス5名の計9名を超える応募があった場合は、どうやって決めるのか。

事務局：今回は先着順とした。まずバトラーを募集して、バトラーが決まった後にオーディエンスを募集した。今回で第2回であるが、試験的なものと考えており、できるだけ参加者を増やせるような環境をつくっていきたいと考えている。

委員：希望する人全てが参加できるようなやり方を研究されてはいかがか。たとえば、我々大学でオンライン会議を開催する場合は、全教職員にパスワードを送り、全教職員が参加できる体制をとっている。

事務局：エントリーした方にパスワードを付与するシステムなので、広げていくことはできるのではないかと考えている。ご指摘のとおり、今後は、オーディエンスをどうやって増やしていくの

かという点が課題と考えている。ただ、オンラインでのやりとりができる環境が整っていることが前提となるので、ご高齢の方でそういう環境にないといった方もいらっしゃると思う。そういった方はこちらに来ていただいて観覧していただくということになるので、やはりオンラインと会場の両方での運用が必要になると考えている。

委員：今回はオーディエンスに何人の応募があったのか。

事務局：当初4名だった。定員である5名の枠まで達していない。

委員：開催について知らない方も多いのかもしれない。

事務局：ご存じないのか、環境が整っていないのか、ちょっと遠慮されているのかというところがまだ見えない。

委員：ビブリオバトルの良さは、会場に行って、あの雰囲気での声をきいてというところが楽しみなどところでもある。オンラインでビブリオバトルができるとは思わなかった。これは素晴らしい取り組みだと思う。

委員：12月の環境部講座は何時から開催予定なのか。あわせて、2月の郷土研究所公開発表会の開催時間も教えて欲しい。

委員：児童文学作家のくすのきしげのりさんは、昨年佐々町でも講演会を開催したし、伊藤明美さんは今年で2回目の講演会となっている。1回来られた方は呼びやすいのかなとも思うが、コロナ禍でなければ、違う方を呼んでいただいてもいいのかなと思う。また、職員、スタッフの健康管理のため図書館でマスク等を用意しているとか、昼休みは密にならないように時間をずらして少人数にするとか、そういった工夫をされているのか。また、オンラインビブリオバトルに限らず、これからはウェブがますます重要になってくると思う。慣れていないと大変な作業なので、これに関わる職員とか、専用のパートさんなどを増やす予定はあるのか、おたずねしたい。

会長：事務局いかがか。

事務局：職員、スタッフあつての図書館なので、仕事をしたくないと思われるような職場にはしたくないと考えている。お昼休みは12時からの方と1時からの方と、だいたい半分ずつ分かれている。パート職員については、従前は、職員休憩室でお昼休みをとっていたものを、密を避けるため、4階事務室の会議机を使って、距離をとって座り、食事をとっていただくことをお願いしている。

それから、ウェブに関しては、本当にこんなに時間を割くのかというくらい準備に時間をとられている。慣れていけば、その部分は減るのかなとも思うが、また新たな障害が発生するのではないかという心配もある。ただ残念ながら、行革の流れで、人員を増やすことはできないので、どうやったらもっと簡単にできるのかということを考えている。たとえば、ウェブ会議に適したソフトがあればそれを利用していく。そういった情報を入手するためアンテナを張って、本庁とも連携していく。教育委員会でも、総合教育センターでは東京の講師の方とオンラインで講演会を開催したりしているので、情報共有しながら取り組んでいきたいと考えている。

委員：大学の授業を全てオンラインでやるように言われて、最初は私たちも素人で、どうしてよいかわからなかった。ただ、1年やってみると慣れるものである。反対に、リモートでやることの便利さを学んだので、今後はこれを生かしていくことができると思う。遠くに行かなくてもリモートでできるので、上手く利用したらよいと思う。

委員：コロナ禍で、来館者対応を含めた衛生管理をしながら、これだけの業務をこなしていくことは、本当に神経をすり減らす、大変なことであると思うので、くれぐれも無理をしないで欲しい。

事務局：先ほどおたずねいただいた、環境部講座の開催時間は13時30分から、図書館3階の視聴

覚室で開催する。また、2月の郷土研究所公开发表会は、14時から開催の予定。開催場所は、同じく視聴覚室となる。

委員：オンラインは、初めはとにかく大変だが、それに慣れていくということと、私自身は、オンラインは前向きな活用だと思っている。オンラインビブリオバトルについても、オーディエンスについては講座形式で集まっていたいて、バトラーの発表を広い画面で見るとか、いろんな工夫もできると考える。オンラインで会議ができるソフトはたくさんあるし、今はどんどん開発が進んで使い勝手が良くなっている。ただ、本当に天候に左右され易く、雨風の強い日だと、どうしてもこんなに音声切れるのかといった難しさはある。また、この状況下で、学校においても、オンラインでの参観や、教室の中にカメラを固定し、職員が巡回して映したものを保護者が別室で参観するといった取り組みを進めている。その場の温度感までは伝わらないが、何もできないというふうにするよりは、新しく開発していくことで、図書館で人と人がつながることが可能になると思うので、是非、頑張って欲しい。

また、ビブリオバトルの取り組みは非常に素晴らしいと思う。実は、今度12月14日に、佐世保市の学校司書と中学校の学校図書館担当の職員が集まって、ビブリオバトルの研修会を実施する。中学生にもビブリオバトルの楽しさを伝えたい。先生たちにも温度差があるので、是非その先を図書館が歩いていただいて、追いかけていきたいと思っている。

委員：自宅でビブリオバトルに参加できるようになれば、もっと普及していくと思う。

委員：今度大学で学会の発表があるが、その日に日本に来ることができない学生は、オンラインで発表することになっている。本当に活用していくという考え方でやると、非常に便利である。いい経験をしたというか、技術を身につけたというか、いい機会だったと思っている。

委員：その場の温度を感じるということもとても大事だが、このwithコロナのなかで、半分温度を感じながら半分ウェブの力を借りてとか、いろんな方法を試されてよいのではないかと思う。

会長：他になければこれで質疑をとどめる。

④その他

ア) 天井改修工事に伴う図書館第一（玄関入口）駐車場の利用中止の件について

～事務局から当日配付資料に基づき報告～

第一（玄関入口）駐車場はアルミルーバー天井となっているが、経年劣化により下地鉄骨の腐食が進んでいるため、当該アルミルーバーと下地鉄骨を撤去し、防鳥ネットを張るといった改修工事を実施する。仮設足場の設置と解体まで含めると工期は12月から来年2月中旬まで予定しており、その期間は、第一（玄関入口）駐車場の利用ができない旨報告した。

イ) 4地区公民館（早岐・相浦・世知原・宇久）図書室の分館化について

《 説 明 》

～事務局から当日配付資料に基づき説明～

事務局：この件は、平成28年12月定例会市議会の一般質問において、図書館とオンラインでつながっている4地区公民館の図書室については、分館にできないのかということを検討する必要があるということでご意見をいただいている。それと、ご承知のとおり、令和3年度から、現在の地区公民館がコミュニティセンター化することに伴い、地区公民館の図書室もコミュニティセンターの図書室、あるいは図書コーナーといったかたちに移行していくといった動きもあるので、特に、図書館とオンラインでつながっているこの4つの図書室について、今後の

運用を含めたあり方について、委員の皆様からご意見をいただきたいと考えている。

まず、4 地区公民館の現状についてご説明する。予算については、資料費を図書館で所管している。それ以外、施設改修費や人件費、消耗品費等については、社会教育課で所管している。

また、図書室の職員の採用については、社会教育課で行い、任用している。採用にあたり司書資格を必須としていない。

現場の労務管理は各地区公民館の館長が行っている。

公民館図書室については、開館時間が 10 時から 18 時までとなっている。

休館日は、月曜日、祝日、第 3 金曜日となっている。

各公民館図書室の蔵書数、面積については配付資料に記載のとおり。人員体制については早岐・相浦は 2 名体制。世知原・宇久は 1 名体制となっている。

このような現状のなかで分館に格上げするとすると、分館の業務として、図書館法の適用を受けることになり、ここの図書館で行っている業務についてもやっていただく必要があり、そうすると、司書を配置する必要があると考えている。新たなサービスとしては、レファレンスサービスと複写サービスが求められることとなり、特に複写サービスについては、著作権法を熟知した職員が必要となってくる。

次に、分館の規模要件として、公益社団法人日本図書館協会が目標を定めており、蔵書が 5 万冊以上、専任職員数 3 名以上が最低限の要件とされている。また、施設面積は 800 m²以上とされているが、残念ながら 4 地区公民館図書室については、いずれも達成していない状況である。

それから、職員の業務量については、現在は社会教育課の職員で担っている部分を図書館で行うこととなるため、その分の業務量の増が生じる。

今は、公民館機能の一部としての図書室なので、やれている状況である。分館に格上げするとすると、分館長、正規職員や担当職員の配置が必要になると考えている。

そのところは、行革との絡みがあるところであり、実は、昭和 57 年に早岐と相浦の分館を廃止して地区公民館の図書室に移行することで、正規職員を 2 名減らしている。

再びこれを分館にするとすると、それ相応の職員が必要になると考えている。

《 質 疑 》

会長：ただいまの説明に対し意見等があればお願いしたい。

委員：図書館は社会教育の場であり、図書館としての機能を有するコミュニティセンターが佐世保にたくさんできることは、市民が今まで以上にサービスを受けることができるといった考えは理解できる。図書室が分館となり、専門性の高い司書が配置されたとしたら、本館まで出向かなくても自分のコミュニティのところで、いろんなレファレンスを受けたり、予約サービスを受けることができるようになるので、地域として社会性が伸びると考える。

委員：社会教育課との関係もあると思う。人的な配置については社会教育課の所管なので。

委員：人を増やせるのであれば、この際、前向きに考えた方が良いと思う。予算がついて、司書が増えて、地域の活性化のため図書館サービス機能を高めていくということであれば、どんどんやった方がよいと思う。

委員：早岐は独立した建物であり、相浦は最近建て替えを行った。この 2 つの公民館図書室は、他の公民館図書室、図書棚と比べると全く性質が異なる、立派なものになっていると思う。他の公民館の図書は、エントランスのところに本棚を置いて借りていいですよとしていたり、こちらから言わないと開けてくれない小部屋を図書室と称したりしている。この 4 つの図書室は、他の公民

館図書室とは全く違うと思うので、分館化すると、地域住民にとっては、より良いサービスを受けられるようになるのかなと思う。

ただし、図書館の現在の予算に加えて、きちんと分館化したときの予算も措置されることが前提となる。専任の職員も雇用できて、蔵書についてもおいおい充実させていくということであれば、分館化してくれた方が市民にとっては良いことであると思う。

委員：他の公民館図書室と比べると、やはり早岐と相浦は規模が大きいのでこの2つを分館として考えられたらいかがか。世知原と宇久については地域的には離れていると思うが、図書館とオンラインでつながったサービスを提供できているので、後は、職員の配置の問題だけであると思う。

委員：まずは人員確保。分館化しておいて、当面は図書館で応援してくれないかというのでは承服しがたい。人員確保が条件の1つであると思う。理想を言えば、人員を増やして、地域の方々により良いサービスを提供して、地域の皆様と一緒に発展することができれば一番良いが、果てしてその分の予算が確保できるのかが疑問である。

事務局：分館化した方が良い点もあるし、現状のままの方が良い点もある。本日頂いたご意見をふまえ、関係各課と協議を行い、改めてご提案をさせていただきたい。

会長：他になければこれで質疑をとどめる。

《 次回開催日について 》

令和3年2月下旬から3月中旬までの間で開催。日程については事務局で調整する。

(3) 閉会

以 上